

2024年度 事業所向け放課後等デイサービス自己評価集計表（担当職員 14名）

放課後等デイサービス あい・ぼーと

	項目	はい(人)	どちらともいえない(人)	いいえ(人)	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係は適切であるか	7	5	2	しっかりと身体を動かして遊べるスペースと静かに過ごせるスペースと分けて活動している。
	② 職員の配置数は適切であるか	2	5	7	職員配置において、集団療育、個別対応を充足させていくためにも、職員間の連携、支援の専門性の向上が必要と考える。活動内容の検討、調整を図り、支援の充実に繋げていく。
	③ 事業所の設備は、使いやすく安全であるか	4	2	8	階段に手すりをつけ、安全面に配慮している。 環境、設備等について、不備がないかチェック機能を強化する。

業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	6	4	4	業務改善後、PDCAサイクルの沿い、新たな改善が必要であれば改善している。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6	8	0	アンケート結果から、職員間で保護者の意向を共有し、具体的な解決策を出し、業務改善に繋げている。
	⑥ 自己評価表の結果を、事業所のホームページ等で公開しているか	8	6	0	自己評価の結果をもとに課題の改善や充実に向けて、取り組む。

⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	5	5	4	状況に応じて、評価を行っていく。
⑧	職員の資質向上のため、研修の機会を確保しているか	8	5	1	事業所、拠点内で研修に参加できる機会を設けている。積極的な参加に繋がるよう、研修内容の充実、参加しやすい研修時間の設定等工夫する。 施設支援で専門性をもった職員にアドバイスをいただき、専門性の向上に努めている。

適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、保護者と子どものニーズや課題を客観的に分析した上で「個別支援計画」を作成しているか	8	6	0	保護者や子どものニーズを丁寧にききとり、支援計画に反映させている
	⑩	子どもの特性を理解するために、アセスメントツール（発達検査等）を使用しているか	9	3	2	発達検査の結果を活用し支援をしているが、結果と相違が見られる場合がある。職員間で共有し、検討していく。
	⑪	活動内容の立案をチームで行っているか	9	5	0	支援前の時間、職員会議等で話し合う時間を設け、立案している。
	⑫	活動内容が固定化しないよう工夫しているか	7	7	0	多職種と連携を図り、意見を取り入れ、幅広く活躍内容を考えている。
	⑬	平日、長期休暇に応じて、課題を適切に設定して支援しているか	8	5	1	戸外や公共の場など地域資源を活用し、長期休暇ならではの活動や遊びに取り組んでいる。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ「個別支援計画」を作成しているか	7	7	0	個々に応じて、個別、集団活動と偏りがないように作成している。
	⑮	支援開始前に、職員間で打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	10	3	1	その日の活動内容や職員の役割など、朝礼で毎日確認している。
	⑯	支援終了後に、職員間でその日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	10	3	1	その日の振り返りを支援終了後に実施し、職員間で共有している。参加が難しい場合は、翌日の朝礼及び職員会議等で共有し、支援に繋げている。

⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の改善につなげているか	9	5	0	記録をとることで、支援内容や状況を確認している。職員間で気付きを共有し、次の支援に繋げている。
⑱	定期的なモニタリングを行い、「個別支援計画」の見直しを行っているか	11	3	0	多職種や関係機関と連携を図りながら実施している。
⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	8	5	1	1年を通じて複数組み合わせ、支援を行なっている。

関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	9	5	0	その児童に関わる担当、児発管等参画し、会議後、内容を職員間で共有している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	11	3	0	行事予定、子どもの下校時間の変更、送迎時の対応等、その都度状況に合わせて、連絡調整、情報共有を行っている。学校との関係性の構築に努めている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもと主治医等と連絡体制を整えているか	5	4	1	現在は受け入れていない。
	㉓	就学前に利用していた関係機関との間で情報共有と相互理解に努めているか	6	8	1	就学前に利用していたセンターや事業所と連携を図り情報共有、相互理解に努め、日々の支援に活かされている。
	㉔	放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	7	7	0	担当者会議に参加、事業所との連携を図り、スムーズな移行が成されるよう取り組んでいる。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	11	2	1	児童発達支援センターの専門職と連携し、助言を受け、施設職員の専門性の向上に繋げている。
	㉖	地域の中で、同年代の子どもたちと交流する機会はあるか	7	5	2	戸外活動で地域の公園や公共施設に出掛けることもあるが、地域の子どもの間での交流は少ない為、今後は交流を深める活動を検討する。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	10	3	1	自立支援協議会には積極的に参加し、事業所から発信、地域の課題として声をあげている。
㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	13	1	0	面談をするだけでなく、送迎時や電話で当事業所での様子を伝えたり、また、保護者からは家庭や学校での様子を伺っている。	

	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	11	1	2	保護者の方の対応力を高めていくために、家庭での関わり方やこどもの内面理解、発達理解など共有し、できることを一緒に考え、実践し、フィードバックをしている。
--	----	--	----	---	---	--

保護者への説明	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	12	2	0	契約時に分かりやすく丁寧に説明している。都度、保護者に対応、理解、確認に努めている。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	13	1	0	発信がある保護者に限らず、声を上げにくい保護者にも目を配り相談しやすい状況を作っていく。
	③⑫	「保護者のつどい」等、保護者同士の関係を深めるための支援が行われているか	13	1	0	引き続き来年度も「保護者のつどい」を開催し、保護者同士の交流を深める場を増やしていく。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、丁寧に対応し適切な対処・改善がなされたか	12	2	0	相談があった際、相互の保護者の話を聞き、迅速かつ丁寧に対応し、改善に繋げている。

責任など	③④	活動内容や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を発信しているか	12	1	1	活動内容や行事予定、保護者への連絡事項、研修案内等、メール配信にて行っている。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	13	1	0	個人情報取扱研修を受け、職員間で共有し、プライバシーや個人情報の保護について十分注意している。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	13	1	0	意思の疎通が図られているか、確認をしている。

非常事等の対応	③⑦	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	13	1	0	各マニュアルは策定しているが、防犯訓練は実施できていない。防犯訓練の計画立案し、実施する。
	③⑧	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	13	1	0	平日利用児・職員、土曜日利用児・職員を対象に年に2回、避難訓練を実施している。
	③⑨	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	13	1	0	人権研修、虐待防止研修に参加し、虐待防止に努めている。また、日頃からチームで話し合う時間を増やすようにし、コミュニケーションが取れるように心掛けている。
	④⑩	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に丁寧に説明し、同意を得ているか	13	1	0	身体拘束に関する説明を行い、支援計画に記載し同意を得ている。
	④⑪	ヒヤリハット報告書を作成し、事業所内で共有しているか	13	1	0	ヒヤリハット事案が発生した際は、職員で共有し改善に繋げている。

【全体としての改善目標】

- ①環境・体制整備の充実→利用児童、保護者の方が安心・安全に過ごすことができるよう、療育環境の整備、充実を図る。
- ②療育内容の充実と専門性の向上→事例検討やカンファレンス等の時間を十分に確保し、ニーズに合った支援を提供する。また、内外部の研修や学習会を通して、こどもの内面理解、発達についての理解を深め、個々の関わり等学び、チーム全体での専門性を高める。
- ③保護者支援の充実→保護者の悩みや相談事に適切に対応できるよう、個別の対応や多職種との連携を図りながら、支援の充実に取り組む。
- ④地域及び関係機関との連携の強化→活動を通して地域交流の場を増やす。また、地域や関係機関との連携の中で、発達理解や放デイの取り組み内容を発信するよう努める。